

令和7年度普及活動外部評価 実施報告書

令和7年12月
高知県農業振興部環境農業推進課

1 目的

普及活動が高度化・多様化するなか、外部の有識者等から、普及活動全般にわたり、幅広い視点から客観的な評価を受け、その結果を今後の効率的かつ効果的な普及活動の推進に資することを目的に、普及活動外部評価を実施する。 高知県普及活動外部評価の実施について P4

2 外部評価委員

分 野	所属・役職	氏 名
先進的な農業者	高知県青年農業土連絡協議会	宮崎 武士 氏 みやざき たけし
若手・女性農業者	高知県農村女性リーダー中央西地区委員	水田 かおり 氏 みずた
農業関係団体	高知県農業協同組合営農販売事業本部 営農指導部長	内村 徳彦 氏 うちむら のりひこ
消費者	株式会社 とさのさと セレクト部門統括マネージャー 兼 AGRI COLLETTO 店長	横山 真二 氏 よこやま しんじ
学識経験者	国立大学法人高知大学 農林海洋科学部総合人間自然科学研究科 講師（農業経営学、農業経済学）	松島 貴則 氏 まつしま たかのり
マスコミ	日本農業新聞 高知通信部 記者	濱渕 光彦 氏 はまうべ みづひこ
民間企業	NTT西日本 高知支店 副支店長	村井 孝至 氏 むらい たかし

3 外部評価対象所属（評価資料、評価結果）

- (1) 中央東農業振興センター農業改良普及課（評価対象 1） P8
- ・普及指導活動の体制等（人員配置・活動の進捗管理・資質向上の取組状況等）
 - ・令和6年度普及指導活動実績の概要一覧
 - ・令和7年度普及指導活動計画の概要一覧
 - ・評価対象課題の実績（令和6年度）及び計画（令和7年度）の概要
　　普及指導活動成果事例：一般課題『露地ミカンの生産基盤強化』
　　※普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言
- (2) 中央西農業振興センター農業改良普及課（評価対象 2） P18
- ・普及指導活動の体制等（人員配置・活動の進捗管理・資質向上の取組状況等）
 - ・令和6年度普及指導活動実績の概要一覧
 - ・令和7年度普及指導活動計画の概要一覧
 - ・評価対象課題の実績（令和6年度）及び計画（令和7年度）の概要
　　普及指導活動成果事例及び現地事例調査：重点課題『土佐市促成ピーマンの産地振興』
　　※普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言
- (3) 須崎農業振興センター高南農業改良普及所（評価対象 3） P29
- ・普及指導活動の体制等（人員配置・活動の進捗管理・資質向上の取組状況等）
 - ・令和6年度普及指導活動実績の概要一覧
 - ・令和7年度普及指導活動計画の概要一覧
 - ・評価対象課題の実績（令和6年度）及び計画（令和7年度）の概要
　　普及指導活動成果事例：一般課題『農福連携の推進』
　　※普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言
- (4) 普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言（評価委員会及び講評） P39

4 外部評価会の日程

- (1) 日 時：令和7年10月14日（火）9：30～16：30
- (2) 場 所：香美農林合同庁舎1F大会議室（香美市土佐山田町加茂777）
- (3) 出席者：外部評価委員6名（1名欠席）、普及指導員等 26名
- (4) 内 容：
- ア 現地調査（香南市香我美町）
- ・露地ミカンにおける作業性改善のモデル園地（農地整備中）
 - ・露地ミカンにおけるマルチ栽培による高品質化の取り組み
- イ 普及活動外部評価会（香美農林合同庁舎1F大会議室）
- ①活動実績等の発表及び質疑
- ・中央東農業振興センター農業改良普及課

- ・中央西農業振興センター農業改良普及課
 - ・須崎農業振興センター高南農業改良普及所
- ②普及活動外部評価委員会（香美農林合同庁舎1F大会議室）
- ・評価委員による各所属に対する評価のまとめ
- ③普及活動外部評価結果の発表（香美農林合同庁舎1F大会議室）
- ・各外部評価委員及び外部評価委員長から講評

5 外部評価委員による講評

<各外部評価委員の講評>

- ・大産地の育成やブランド化の推進に向けて、普及指導員が尽力して取り組んでいることがよくわかった。これからも日々の活動上の目標を達成し、数年後の目標としている地点に到達できるように引き続き取り組んでいただきたい。
- ・関係機関とは役割分担をしてうまく連携できて成果につなげられている点が評価できる。
- ・ある1つの顕在化した問題について重点的に取り組むことも大事であるが、その問題は他の顕在化あるいは潜在化している問題とも連動していることが多いので、問題の洗い出しと整理によって包括的に状況を捉えた上で諸々の問題に対応した活動を開展してもらいたい。
- ・農業は持続可能で次世代に誇れる産業として発展していく可能性が高いと感じている。普及指導員には誇りを持って農業の魅力や価値を社会に広く発信していただくようにしてもらいたい。その社会への発信が他の産業や分野とのつながりに波及し、つながった人たちと共に様々な課題を加速的に解決させていくことにもなると思う。

<外部評価委員長による講評>

- ・普及指導体制については各農業改良普及課・所とも問題なく整備できている。
- ・普及活動に関する進捗管理については各農業改良普及課・所ともチーム会や中間検討会等を通じて実施できている。
- ・普及指導員の資質向上については各農業改良普及課・所とも各種研修の受講やOJT研修等によって実施できている。
- ・普及指導員が活動を通じて、日々農業者と付き合いながら一方で関係機関とも協力して取り組めていることを実感することができた。引き続き、農家の意識を変えて主体的な行動を喚起するために、様々な手法を実践していただきたい。
- ・普及活動の結果として良い点や悪い点を環境農業推進課が吸い上げて各農業改良普及課・所に情報共有していただき、活用できるようにしてもらいたい。また、普及活動の成果を外向けにしっかりとPRすることで、普及組織の維持・強化につなげてもらいたい。

6 主な評価結果に対する普及指導計画（活動）の改善方向

- ・各項目の評価結果と今後の改善方向

P41

高知県普及活動外部評価の実施について

第1 外部評価の目的

普及活動が高度化・多様化するなか、外部の有識者等から、普及活動全般にわたり、幅広い視点から客観的な評価を受け、その結果を今後の効率的かつ効果的な普及活動の推進に資することを目的に、普及活動外部評価（以下、「外部評価」という。）を実施する。

第2 外部評価の方法

（1）評価の対象

以下の表のとおり、毎年3農業改良普及課・所（以下、「普及課・所」という。）を対象とし、第一グループから第三グループの順で実施する。

第一グループ	中央東	中央西	高南
第二グループ	嶺北	高吾	幡多
第三グループ	安芸	高知	須崎

（2）実施体制

主催者は、環境農業推進課長とし、事務局を環境農業推進課内に置く。

事務局は、外部評価の実施に係る事務全般を行う。

（3）外部評価委員

環境農業推進課長が、先進的な農業者、若手・女性農業者、農業関係団体、消費者、学識経験者、マスコミ、民間企業の分野から外部評価委員を選定し、農業振興部長が依頼する。

外部評価委員の互選により委員長を選任する。

（4）実施方法

外部評価の対象となる内容は、①普及指導活動の体制、②普及指導活動の計画、③普及指導活動の実績とする。

普及課・所長は、これらの説明に必要な資料を作成する。その際、環境農業推進課長と普及課・所長が事前に実績について総合的な評価を実施したうえで選定した課題はプレゼンテーションにより説明する。

なお、必要に応じて対象の農家や関係機関等からヒアリング等の現地調査を実施する。

ア 実施場所

環境農業推進課長が設定する高知県内の1会場

イ 評価の対象とする期間

前年度の普及計画を対象とする。なお、プレゼンテーションする課題は、過去3か年程度の取り組み内容を発表する。

ウ 評価の項目と評価の視点

評価項目と評価の視点は、別紙1のとおりとする。

第3 評価結果のとりまとめと公表

（1）評価結果のとりまとめ

委員長は、様式1の各委員の評価結果と委員会での協議をもとに評価結果を取りまとめ、環境農業推進課長に報告する。

(2) 評価結果の公表

環境農業推進課長は、外部評価報告書を作成し、各普及課・所及び農業革新支援チーム会へ周知する。

また、環境農業推進課長は、外部評価報告書及び関係資料をホームページ等で公表する。ただし、個人情報等は公表しない。

第4 次年度以降の活動への反映

環境農業推進課長は、外部評価の結果を踏まえて、次年度の普及指導計画の作成方針に反映させる。各普及課・所長は、普及指導計画の作成方針に基づき普及指導計画を作成する。

さらに、環境農業推進課長は、外部評価の結果をもとに必要に応じて研修カリキュラムや活動体制の見直しを行う。

第5 その他

このほか、委員会の運営及びその他必要な事項については、環境農業推進課長が別に定める。

別紙1

外部評価の視点について

評価項目	評価の視点
普及指導活動の体制について ・課内（所内）の分担 ・活動の進ちょく管理の体制 ・普及指導員の資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・課内（所内）の体制及び普及課題ごとのチーム構成は、業務遂行上必要な構成や人数になっているか。 ・普及活動の進ちょく管理は定期的に行われているか。 ・普及指導員の資質向上は必要な内容・時期に行われているか。
普及指導活動の計画について ・現状の把握と分析 ・あるべき姿の設定 ・普及課題の設定 ・目標設定 ・対象の設定 ・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や産地、対象の概要について現状を把握し、分析できているか。 ・地域や産地の「あるべき姿」を明確に設定できているか。 ・課題の設定理由は適切であるか。（地域の現状、農業者や消費者のニーズ、国や県の政策等を考慮したうえで、「あるべき姿」に向けた課題設定になっているか。） ・目標は課題解決に向けた具体的な内容（数値化等）になっているか。 ・対象の設定は課題解決するうえで適切であるか。 ・関係機関や団体等との役割分担、連携・調整を行い、活動しているか。
普及指導活動の実績について ・活動の経過 ・活動の成果 ・実績の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・活動方法や活動時期は効果的・効率的に実施できていたか。 ・活動の成果は、普及活動の目的に沿った視点でまとめられているか。内部評価を通じて、活動方法や目標達成状況を確認するとともに、次の活動に反映できているか。目標は達成しているか。 ・活動の成果として「あるべき姿」に近づけたか。 ・活動した実績は、農業者や関係機関等に迅速に伝達されているか。

様式 1

外部評価結果

委員氏名

対象所属	○○農業振興センター農業改良普及課／○○農業改良普及所
評価項目	評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制について ・課内（所内）の分担 ・活動の進ちょく管理の体制 ・普及指導員の資質向上の取組	
普及指導活動の計画について ・現状の把握と分析 ・るべき姿の設定 ・普及課題の設定 ・目標設定 ・対象の設定 ・関係機関との連携	
普及指導活動の実績について ・活動の経過 ・活動の成果 ・実績の周知	
総合所見（全体の感想、ご意見を自由に記載してください）	

中央東農業振興センター農業改良普及課

外部評価対象所属の概要

管内市町村 管内JA	香南市、香美市、南国市 JA高知県香美地区、土長地区（南国市）					
産地の特徴 主な園芸品目	管内は、物部川下流域の香南市、南国市と、中・上流域の中山間地を含む香美市の3市となっています。 平野部では温暖な気候を活かした稲作をはじめ、シシトウ、ピーマンやナス等の施設果菜類やトルコギキョウ等の施設花き類、平野部から中山間にかけては施設や露地栽培のニラやネギ類といった葉菜類、温州みかんやユズ等の柑橘類が栽培され、県内を代表する品目の産地が多い地域です。 近年はデータ駆動型農業や大規模露地園芸農業の推進、また集落営農組織の育成や新規就農者の確保育成などに取り組んでいます。					
人員配置 令和4年度 22名 令和5年度 22名 令和6年度 22名	令和7年度職員総数 22名（うち実務経験が3年未満の職員 4名） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">農業改良普及課長 1名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">地域営農担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：香美市)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：香南市)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">産地育成第三担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：南国市)</td> </tr> </table>	農業改良普及課長 1名	地域営農担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：香美市)	産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：香南市)	産地育成第三担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：南国市)
農業改良普及課長 1名						
地域営農担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)						
産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：香美市)						
産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：香南市)						
産地育成第三担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：南国市)						
普及活動の 進ちょく管理	<ul style="list-style-type: none"> ・重点課題や担い手育成業務、3市ごとにチーム会（所内、一部チームは関係機関を含む）を定期的に開催し、進ちょく状況や今後の推進方向などを協議しながら進めています。 ・第二四半期終了後に中間検討会を開催し、専門技術員から助言を受け、下半期の活動内容について検討を行っています。 ・週始めには課内ミーティングを実施し、1週間の動きの共有や業務の協力依頼、調整等を行っています。 ・普及課題ごとの普及指導活動記録や、関連する会議報告書や復命書を作成し、所属内で共有しています。 					
職員の資質向上 上の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ●職場研修（令和6年度） <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の普及課の課内会後に、職員等が講師になり実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ①適正な処理や操作方法を習得する 会計事務処理、ビジネスマナー、病害虫診断手法（基礎編） 					

	<p>②地域農業の実情や課題を整理し今後の活動を考える 病害虫診断手法（応用編）、県農産物の流通（仕組み）、南海トラフ地震が発生した場合の初動（フェーズ2）、SAWACHIを活用した経営目標の管理、普及計画作成等の課題整理手法、農業分野における知的財産</p> <p>③業務の効率化 AIを活用した業務の効率化について</p> <p>●新任者を対象にしたOJT（令和6年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：1年目職員1名、2年目職員1名 ・2年目までの職員にはトレーナー（チーフ等）を配置し、普及指導員として必要な栽培管理技術、実証は、現地検討会等を活用した普及方法、普及計画の策定と実践、関係機関との連携及びコミュニケーション能力などトレーナーを中心として職場全体で育成を進めています。 <p>●国段階研修（令和6年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名</th><th>人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普及指導員養成研修Ⅰ（新人コース）</td><td>1名</td></tr> <tr> <td>普及指導員実務能力習得研修Ⅰ</td><td>1名</td></tr> <tr> <td>スマート農業研修Ⅱ（果樹）</td><td>2名</td></tr> <tr> <td>新規普及職員研修（中国四国ブロック）</td><td>1名</td></tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和5年度の参加人数 5名</p> <p>●県段階研修（令和6年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名</th><th>人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏秋栽培における非辛みシットウの栽培技術の確立</td><td>2名</td></tr> <tr> <td>水稻の有機栽培技術の検討</td><td>2名</td></tr> <tr> <td>花き類における経営実態の把握と低コストで効率的な栽培方法の検討</td><td>1名</td></tr> <tr> <td>主要花きのハウス内環境データを利用した栽培技術指導力の向上</td><td>1名</td></tr> <tr> <td>普及指導員新任者研修（1年目）</td><td>1名</td></tr> <tr> <td>普及指導員新任者研修（2年目）</td><td>1名</td></tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和5年度の参加人数 5名</p> <p>上記の他に、普及指導員専門技術高度化研修等へ参加 野菜（5名）、果樹（2名）、花き（1名）、普通作物（3名）、経営等（3名）、データ駆動（2名）、若手育成（2名）</p> <p>タブレット等ICT技術の活用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地での環境データの収集や情報提供 ・労働力確保等のための作業動画作成 ・農家や関係機関とのIoPクラウド「SAWACHI」に関する研修 ・オンライン会議（各種Web会議・研修等） ・ハウスや園地情報の蓄積（所内情報共有、ナビゲーション） 	研修名	人数	普及指導員養成研修Ⅰ（新人コース）	1名	普及指導員実務能力習得研修Ⅰ	1名	スマート農業研修Ⅱ（果樹）	2名	新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名	研修名	人数	夏秋栽培における非辛みシットウの栽培技術の確立	2名	水稻の有機栽培技術の検討	2名	花き類における経営実態の把握と低コストで効率的な栽培方法の検討	1名	主要花きのハウス内環境データを利用した栽培技術指導力の向上	1名	普及指導員新任者研修（1年目）	1名	普及指導員新任者研修（2年目）	1名
研修名	人数																								
普及指導員養成研修Ⅰ（新人コース）	1名																								
普及指導員実務能力習得研修Ⅰ	1名																								
スマート農業研修Ⅱ（果樹）	2名																								
新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名																								
研修名	人数																								
夏秋栽培における非辛みシットウの栽培技術の確立	2名																								
水稻の有機栽培技術の検討	2名																								
花き類における経営実態の把握と低コストで効率的な栽培方法の検討	1名																								
主要花きのハウス内環境データを利用した栽培技術指導力の向上	1名																								
普及指導員新任者研修（1年目）	1名																								
普及指導員新任者研修（2年目）	1名																								

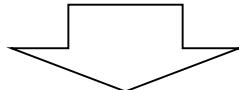
外部評価対象課題の普及実績（令和6年度）及び計画（令和7年度）の概要

所属名	中央東農業振興センター
課題名	露地ミカンの生産基盤強化
取組期間	令和6～9年度 (令和5年度から露地ミカンを課題化。その際の課題名は「露地ミカンの共選出荷強化」)
対象	J A高知県香美地区果樹部露地みかん部会
ねらい	<p>栽培面積が産地構造改革計画の目標値よりも減少し、産地の維持が危惧される中、計画的な改植や農地基盤の整備、選果機の高度化などの生産基盤の強化が求められていた。</p> <p>そこで、生産部会、J A高知県香美地区、香南市、中央東農業振興センターは「山北みかん」ブランドの産地を維持するための取り組みを令和5年度より開始した。</p> <p>○生産基盤強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手の確保対策として地域おこし協力隊制度を活用している。しかし、作業性や排水性の悪い園地が散見されており、優良園地の確保が課題となっている。そこで、新規就農者や規模拡大意向のある農家に向けて、生産性の高い園地の確保のための農地整備に取り組む。 ・摘果・せん定等の栽培管理を徹底することで、隔年結果を是正し、連年で安定した収量の確保に取り組む。 <p>○高品質・省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年は極端な大雨や少雨による果実品質の低下が懸念されている。そこで、高品質化の取り組みとしてマルチ被覆栽培を推進する。また、更なる高品質化と安定した収量確保のための土壤水分データを活用した栽培指標を検討する。 ・労力不足による防除等の管理作業の遅れを解消するため、ドローン防除の効果を検討し、導入を推進する。
令和6年度の主な実績	<p>○生産基盤強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地条件の改善・規模拡大を希望する5名の農地整備に係る事業計画が策定された。また、地域おこし協力隊から就農する2名の園地には、園地整備後に国事業を活用して鳥獣害防護柵を設置できることとなった。 ・共選出荷量は、目標値の680 tを下回る480 tとなった。令和5年産が大豊作であったことに加え、秋季以降の高温と少雨により花芽分化が進まなかつたために、着花量が少なかったことが主な要因と考えられた。 <p>○高品質・省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルチ被覆栽培の出荷量は着花量が少なかったため、目標値の120 tを下回る66 tとなった。 ・水田転換園における「ゆら早生」のマルチ被覆効果を検証し、品質向上効果を確認した(7～11月) ・新たに3名の生産者がマルチ被覆栽培に取り組んだ。 ・ドローン防除実証試験を農業支援サービス事業者と協力して実施し、省力化(作業時間；約180分→7分20秒)及び防除効果の有用性を確認した。 ドローン防除委託利用者は、0名(R5)→4名(R6)に増加した。 ・令和6年度のドローン防除委託利用者は令和7年度も継続利用の意向を示し、令和7年度は新たに4名が利用することとなった。

	項目	現状（R 5）	目標（R 6）	実績（R 6）
「共選」出荷量 （裏年の平均値）	600 t	630 t (裏年)	480 t	
マルチ被覆栽培出荷量 （裏年の平均値）	110 t	120 t (裏年)	66 t	

令和6年度の主要な活動内容と実施時期

- 生産基盤強化
 - ・農地整備のニーズを把握するため、概ね3年に1回実施している営農意向調査に、園地条件の改善や規模拡大に関する項目を追加し、JA営農指導員と協力して調査した（4～6月）。
 - ・営農意向調査結果をふまえ、農地整備を希望する18戸の園地を調査し、5名の要望をまとめ、令和7年度からの事業計画の策定を支援した。
 - ・香南市、鳥獣対策専門員と連携して鳥獣被害防止に効果的な柵の設置方法を検討し、費用対効果の算出等を市に助言し、事業計画作成を支援した（2月）。
 - ・安定生産対策として、現地研修会や個別巡回で摘果やせん定等の栽培管理を指導した（4～11、3月 18回）。
- 高品質・省力化
 - ・マルチ被覆栽培を推進するため、研修会を開催しマルチ被覆栽培のポイント等を指導した（4～11月 6回）。
 - ・調査ほを設置し、「ゆら早生」の水田転換園におけるマルチ被覆栽培の効果を検証した。（7～10月 1カ所）
 - ・ドローン防除を請け負う農業支援サービス事業者と連携し、1戸で省力効果と防除効果を調査し、結果を現地研修会で周知した（6～12月、3月）。



令和7年度の主な目標

- 生産基盤の強化
 - ・産地の維持に向けて産地構造改革計画の改定を支援し、部会と関係機関が連携して取り組むための産地目標を作成・共有。
 - ・農地整備など産地目標達成に向けた支援策の周知。
 - ・「共選」出荷量の維持。
- 高品質・省力化
 - ・マルチ被覆栽培における土壤水分センサーの活用指標の検討。
 - ・ドローン防除利用者数の増加。

項目	現状（R 6）	目標（R 7）
「共選」出荷量	700 t (表年の平均値)	730 t (表年)
ドローン防除委託利用者	4名	6名

令和7年度の主要な活動内容と実施時期	<p>○生産基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地協議会で産地の維持に向けた提案及び活用可能な事業を周知（4月）。 ・園地整備希望者に対しての面談及び事業計画の作成（4～3月）。 ・防除や着果量、せん定等の適正な管理作業の実践支援。 <p>○高品質・省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壤水分センサーを3ヵ所の園地に設置し、高品質化に向けた栽培指標の検討（9～12月 3ヵ所）。 ・ドローン実証試験を農業支援サービス事業者と協力して、省力効果や防除効果のとりまとめ、現地研修会でドローン活用ポイントを周知（9月、3月）。
--------------------	---

所内体制	果樹担当1名、経営・担い手担当1名
連携推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・産地構造改革計画の推進（4月、5月、9月、1月） <ul style="list-style-type: none"> J A高知県香美地区果樹部及び露地みかん部会・J A・市・中央東農業振興センター（普及課。必要に応じて基盤課も参加）協議 ・担い手に関する情報共有（毎月） <ul style="list-style-type: none"> 香南市農業関係機関連絡会（市・農委・再生協・J A・N O S A I ・農政局高知県拠点）で情報共有

```

graph TD
    subgraph "担い手に関する情報共有"
        A[香南市]
        B[J A高知県香美地区]
        C[中央東農業振興センター]
        D[農業委員会]
        E[農業再生協議会]
        F[N O S A I]
    end
    subgraph "産地構造改革計画の推進"
        G[J A高知県香美地区果樹部]
        H[露地ミカン部会]
    end

```

令和6年度 普及指導活動実績の概要一覧

中央東農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成 状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重点 1	産地ビジョンに基づくニラ産地の維持・発展	7	反当収量10%向上農家数（既存農家）	—	4戸 ／4戸	3戸 ／4戸	△	目標達成できなかった主な理由は、高温期に徒長して弱くなった株の草勢を回復させられなかった。令和7年度は月2回の個別巡回や面談により栽培及び出荷状況、管理スケジュールを共有・確認する。	
			経営目標達成農家数（新規就農者）	5人 ／6人	6人 ／6人	6人 ／6人	○	個別指導や講習会などの集団指導により、栽培管理、作業計画の管理が適切に実践できるようになり、目標達成できた。	
			そぐりセンター受入量（1～12月計）	280t	320t	249t	△	品質に応じた受込量の調整など効率的な稼働を目指していたが、作業員の減少により受込数量目標が達成できなかった。	
重点 2	南国市シシトウ産地の維持・拡大	5	産地ビジョンの作成	—	作成	概ね作成	△	4部会での協議のため、意見集約等に時間を要したが、今後の取組内容を整理できたので、次年度は目標値を設定し産地ビジョンを作成する。	
			反収2.6t以上の農家戸数（1月末）	22戸 ／57戸	24戸 ／57戸	25戸 ／57戸	○	基本栽培技術や植物生理に基づいたオランダ型の変温管理等が理解され、管理方法を見直す農家が増えた。	
重点 3	南国市の大規模農地整備を契機とした新たな営農推進	4	栽培実証事例	0	1	1	○	キャベツの栽培暦を作成するにあたり、実証農家や関係機関との協議、市場評価の把握や他県の事例調査なども実施した。作成した資料をもとに法人が規模拡大した。	
			タマネギの反収	5.2 t	5.2 t	3.1 t	△	品種特性に応じた管理ができなかったり、労力不足もあり目標収量には達しなかった。次作は規模拡大する農地の集約化により課題解決を図る。	
一般 1	新規就農者の確保	4	独立新規就農者数	0	5名	9名	○	生産部会や関係機関と連携し、指導農業士の推薦や産地提案書の見直し等受入体制を強化し、就農に向けた支援を実施した。	
			親元就農者数	0	10名	4名	△	近年は自分の裁量で仕事ができる等の理由で独立就農が多くなっている。又、厳しい環境のため子の就農に慎重な親がいることから親元就農が少なくなった。	
一般 2	集落営農の推進及び組織の育成	7	集落営農組織の新規設立数	0	1組織	1組織	○	関係機関と連携し組織化の意向のある集落代表者等への面談を重ね、組織化へのスケジュールや組織体制等の助言をきめ細やかに行なったことで組織化ができた。	

一般 3	担い手の育成を核とした「物部ゆず」の産地力強化	2	新規就農者の平均青果率	56%	70%	51%	△	カメムシ類の多発生や秋季の高温によるハナアザミウマ類の発生等で、目標に届かなかった。次作は農家の状況に合わせた指導等により青果率向上を支援する。	
一般 4	ハウスミカン産地の維持	3	早生秀品率	45%	50%	47%	△	天敵活用時の防除タイミングの指導やSAWACHIを活用し適正な温度管理を指導し、前年より秀品率は向上したが、目標には届かなかった。	
一般 5	露地ミカンの生産基盤強化	2	「共選」出荷量 【裏年】	600t	630t	480t	△	摘果、せん定、樹勢回復、適期防除等の安定生産を指導したが、想定以上の裏年となつた。今後も防除や着果量、せん定等の適正な管理作業の実践を支援する。	
一般 6	ネギ産地の強化	3	出荷調整体制が整備される	—	体制整備	体制が整備された	○	J A作業部会の立ち上げや運営を支援した。8月の利用組合の設立、11月の北部そぐりセンターの稼働につながった。	
一般 7	フルーツトマトの生産安定	2	経営計画達成 新規就農者数	1戸／年	4戸／年	2戸／年	△	個別巡回指導を毎月実施したが、高温の影響でかん水管理が適切でなかった等で2戸は目標達成できなかつた。今後は生育調査を組合せ、引き続き個別支援にあたる。	
一般 8	促成ピーマンの収量向上とデータ駆動型農業の推進	2	目標収量達成農家数	—	12戸／12戸	4戸／12戸	△	黒枯病対策の周知と環境制御技術を活用したことで病気の発生は少なかつたが、定植初期の高温により収量目標達成農家が4戸だった。今後は基本技術の徹底と害虫の体系防除を指導する。	
一般 9	オオバのIPM技術を活用した生産安定と新規就農者の育成	3	収量目標達成戸数	2戸／2戸	2戸／2戸	2戸／2戸	○	月1回以上の個別巡回による技術指導により、肥培管理及び病害虫対策等が適切に行われ目標収量が達成できた。	
一般 10	オクラの収量向上による産地の維持	1	出荷量 (4～8月)	264t	270t	271t	○	新規就農者への個別巡回（月1回以上）や現地検討会（年5回）、実証は設置（2カ所）等により基本技術の徹底ができた。	
一般 11	トルコギキョウ産地の活性化	2	共同出荷本数 (J Aトルコギキョウ部会)	15万2千本(1月末)	15万5千本(1月末)	12万6千本(2月末)	△	土壤病害対策として太陽熱消毒や低濃度エタノール処理等を周知した結果、枯死株の発生は場が減少したが、栽培戸数が減少したため、目標は未達成となつた。	
一般 12	早期水稻の生産振興	3	収穫量 (kg/10a)	540 <慣行>	486 <5割減>	551 <5割減>	○	J Aと連携して栽培管理指導や病害虫発生状況を確認し、香南市農業公社の生産を支援した結果、目標収量が達成できた。	
一般 13	農福連携の推進	8	マッチング件数	2	2	5	○	福祉保健所など福祉関係機関と連携し、情報共有や協議の場を持ち課題解決に取り組んだ結果、目標達成できた。	

令和7年度 普及指導活動計画の概要一覧

普及課・所名 中央東農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重点1	産地ビジョンに基づくニラ産地の維持・発展	5	反当収量10%向上農家数(既存農家)	3戸 ／4戸	4戸 ／4戸	個別巡回(月2回)、栽培講習会や現地検討会、目慣れし会(年5回)	
			経営目標達成農家数(新規就農者)	6人 ／6人	7人 ／7人	個別巡回(月1回)、栽培講習会や現地検討会、目慣れし会(年5回)、グリーンカレッジ(年4回)、個別面談(年1回)	
			そぐりセンター受入量(1～12月計)	249t	320t	定例会への参画(月1回)、品質向上に向けた個別巡回(7～12月：3回)	
重点2	南国市シットウ産地の維持・拡大	5	産地ビジョンの作成	概ね作成	作成	合同役員会(4回)、関係機関との協議(2回)、個別協議(4回)	
			反収2.6t以上の農家戸数(1月末)	25戸 ／57戸	26戸 ／57戸	個別巡回(月1～2回)、現地検討会、勉強会等(年3回)、実証ほ設置1カ所	
重点3	南国市の大規模農地整備を契機とした新たな営農推進	5	栽培実証事例	1	2	実証ほ設置2カ所、市場との検討会1回、先進地視察調査1回、経営資料作成会議4回	
			タマネギの反収	3.1t	3.7t	個別巡回(月2回)、実証ほ設置2カ所	
一般1	新規就農者及び法人経営体の確保	5	独立新規及び親元就農者数	0名	11名	就農相談対応(年36回)、個別面談(年14回)、部会等への親元就農のPR(年5回)	
一般2	集落営農の推進	7	法人目標の達成	1／2	2／2	個別面談(年4回)、個別巡回(年8回)	
一般3	担い手の育成を核とした「物部ゆず」の産地力強化	2	新規就農者の平均青果率	51.7%	70%	個別巡回(年36回)、講習会等(年2回)、個別面談(年6回)	
一般4	ハウスミカン産地の維持	2	早生秀品率	47%	50%	現地研修会等(年16回)、個別巡回(週1回)、役員会(年8回)、産地協議会(年5回)、実証ほ設置3カ所	

一般 5	露地ミカンの生産基盤強化	2	「共選」出荷量 【表年】	700t	730t	現地研修会（年15回）、個別巡回（月2回）、役員会（年5回）、産地協議会（年5回）、実証ほ設置3カ所	
一般 6	小ネギ産地の強化	2	土壤分析実施戸数率	42%	80%	栽培講習会（年3回）、個別巡回（年24回）、土壤分析（30件）	
一般 7	フルーツトマトの生産安定	3	経営計画達成農家数	2戸 ／3戸	3戸 ／3戸	個別巡回（年9回）、個別面談（年9回）、講習会（年1回）、現地検討会（年5回）	
一般 8	促成ピーマン産地の活性化	5	7t/10a以上の農家数（1月末）	4戸	6戸	講習会等（年3回）、現地検討会（年9回）、個別巡回（年11回）	
一般 9	オオバの生産安定	2	部会目標（反収）達成農家数	9戸	11戸	勉強会（年2回）、個別巡回（年12回）	
一般10	オクラの収量性向上による産地の維持	2	重点指導農家10戸の平均反当収量	2.3 t	2.4 t	現地検討会（年4回）、個別巡回（年8回）、実証ほ設置9カ所	
一般11	トルコギキョウの担い手の育成	3	産地提案書の見直し	R 2年に作成	見直しされる	生産部会等との協議（年4回）、個別巡回（年7回）	
一般12	水稻の生産振興	5	特別栽培米反収 (kg/10a)	634.7	635	個別巡回（年3回）、個別面談（年2回）	
一般13	農福連携の推進	4	マッチング件数	5	2	地区協議会等（年4回）	
一般14	法人経営体の経営発展と地域計画の実現に向けた担い手の確保	6	法人の目標収量の達成(1月末反収)	—	11t	個別巡回（年12回）	
一般15	データを活用した有機栽培技術の普及	3	陽熱プラスを活用した土壤消毒の実施ほ場数	0	2	個別巡回（年10回）、実証ほ設置2カ所	

令和7年度普及活動外部評価会
普及事業の外部評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央東農業振興センター農業改良普及課

(○評価会で発表 ●評価表に記載)

評価項目	評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制 ・課内（所内）の分担 ・活動の進ちょく管理の体制 ・普及指導員の資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●人員配置について、管内3市にそれぞれ産地育成チームが編成されており、地域営農チームとも連携しながら取り組みができている。 ●進捗管理について、チーム会や週初めミーティング、中間検討会等で確認できている。 ●人材育成について、研修への参加や新任者へのOJTも実施されている。職員数と普及計画課題数が多く、多種多様な先進農家も多い特色を生かして、新任者等の職員の資質向上につなげてもらいたい。
普及指導活動の計画 ・現状の把握と分析 ・あるべき姿の設定 ・普及課題の設定 ・目標設定 ・対象の設定 ・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●あるべき姿の設定について、概ね適切に設定がされている。これらのあるべき姿を地域農業者や関係者等としっかりと共有してもらいたい。 ○関係機関との連携について、基盤整備課と連携した取組である点が評価できる。一方で、農地中間管理機構との連携がされているのかが気になった。 ○目標設定について、取組内容と活動の効果が発現する時間が異なる。生産基盤の内容は数年で成果が出るようなものではない。短期的な取組と長期的な取組を分けて整理して目標設定と活動計画の作成をしてもらいたい。
普及指導活動の成果 ・活動の経過 ・活動の成果 ・実績の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○マルチ被覆による栽培方法やドローン防除の費用対効果や所得について示すなど経営的視点をさらに入れて取り組んでほしい。生産者らと協力しながら数値化して示す意識をもってもらいたい。 ○モデル農家の実証成果の活用について、成果を幅広く普及していくために活動の成果と課題を整理して次年度計画を策定してもらいたい。
外部評価、総合所見等	<ul style="list-style-type: none"> ○単価向上を目的に、マルチ栽培のミカンの食味を見る化することも検討してもらいたい。 ○若手とベテランの栽培技術の格差解消や産地の方向性の統一を目的に、食味を比較するような品評会の開催等の仕掛けを検討してもらいたい。 ○地域内でミカンが大切な位置付けされていることから、箱売りの中にキャラクターシールを入れる等のPRによってミカンの産地・地域づくりにつなげてもらいたい。 ○アンケート集計にAIを活用するなど効率的に活動している点が評価できる。今後も新しい技術を活用した普及活動してもらいたい。

中央西農業振興センター農業改良普及課

外部評価対象所属の概要

管内市町村 管内JA	市町：土佐市、いの町 JA：JA高知県仁淀川地区営農経済センター 高陵青果農協			
産地の特徴 主な園芸品目	<ul style="list-style-type: none"> 管内は仁淀川河口部の海岸部から県境の山間地に位置し、多様な農業が営まれています。 温暖な平坦流域では、ピーマン・キュウリ・ニラ・シトウ・メロン等の施設野菜やユリ等の施設花き、ショウガ・青ネギ等の露地野菜や土佐文旦、小夏等の特産果樹が栽培されています。 中山間地域では露地ショウガ、露地ニラ、白芽芋等の夏秋野菜やユズ等が栽培されています。また、直販所向けの農産物も栽培され、農産加工品の製造も行われています。 			
人員配置 令和4年度 12名 令和5年度 12名 令和6年度 11名	<p>令和7年度職員総数 11名（うち実務経験が3年未満の職員 1名）</p> <table border="1"> <tr> <td>農業改良普及課長 1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当 チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成担当 チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)</td> </tr> </table> <p>※令和4、5年度については、育休代替による1名の暫定配置 ※令和6年度は、1名3ヶ月間、石川県能登地域への災害派遣</p>	農業改良普及課長 1名	地域営農担当 チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)	産地育成担当 チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)
農業改良普及課長 1名				
地域営農担当 チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)				
産地育成担当 チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)				
普及活動の 進ちょく管理	<ul style="list-style-type: none"> 重点課題については、毎月チーム会を開催し、取組の進捗状況や進め方、今後の活動に向けた役割の確認等を行いながら進めています。 データ駆動型農業に関する課題（重点1、一般1、一般2）については、毎月チーム会を開催し、取組や分析方法、農家へのフィードバック手法等について検討、確認を行なながら進めています。またJA指導員との会を年3回開催し、意識のすりあわせや方向性を確認しています。 その他的一般課題については、毎月開催している職員会において課題担当者が隔月で進捗状況等を報告し、他の職員や上司、専門技術員等からのアドバイスを受け、目標達成に向けた取組を確認しています。 四半期毎には、取りまとめた活動実績（進捗状況）を職場内で共有するとともに、目標達成に向けた課題や問題点等の解決方法、今後の活動について協議しています。 市町やJA等の関係機関とは、連絡会や扱い手育成協議会幹事会、各品目担当同士等で方向性を確認しています。 			

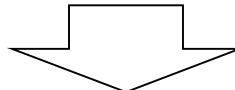
職員の資質向上の取組状況	<p>●職場研修（令和6年度）</p> <p>中央西農業振興センター全体研修（選択研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①吾北地域の農業と仕組みづくり（現地研修） ②農業経営支援に係る知識、手法について（講義） ③みどり認定の認定手順と運用について（講義） ④斗賀野地区の農村地域を守る会について（講義、現地研修） ⑤農業における多様な労働力人材について（講義） ⑥ほ場整備事業及び整備された優良農地の現状と課題について（講義、現地研修） ⑦トマトの集出荷場見学とシュガートマトの歴史について（現地研修） <p>普及課研修（必須）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農薬の使用方法について（講義） <p>●新任者を対象にしたOJT（令和6年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任者（3年目未満）0名 <p>●県段階研修（令和6年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="409 916 1224 968">研修名</th><th data-bbox="1224 916 1346 968">人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="409 968 1224 1019">新任普及指導員研修Ⅰ（普及指導活動経験者コース）</td><td data-bbox="1224 968 1346 1019">1名</td></tr> <tr> <td data-bbox="409 1019 1224 1062">みどりの食料システム戦略研修（土づくり・化学肥料低減）</td><td data-bbox="1224 1019 1346 1062">1名</td></tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和5年度の参加人数 3名</p> <p>●県段階研修（令和6年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="409 1170 1224 1221">研修名</th><th data-bbox="1224 1170 1346 1221">人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="409 1221 1224 1612"> 自主企画研修 「夏秋栽培における非辛みシットウの栽培技術の確立」 「水稻の有機栽培技術の検討」 「花き類における経営実態の把握と 低コストで効率的な栽培方法の検討」 「主要花きのハウス内環境データを利用した 栽培技術指導力の向上」 </td><td data-bbox="1224 1221 1346 1612"> 1名 1名 2名 1名 </td></tr> <tr> <td data-bbox="409 1612 1224 1612">有機農業指導員講習（有機JAS認証マスター講座）</td><td data-bbox="1224 1612 1346 1612">2名</td></tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和5年度の参加人数 4名</p> <p>上記の他に、県内普及指導員専門技術高度化研修などへ参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修 データ駆動Ⅰ、Ⅱ：1名 ・高度化研修 普通作物：1名、野菜：2名、果樹：1名、 病害虫：1名、6次産業化Ⅰ、Ⅱ：1名、 集落営農：1名、普及指導活動：1名 ・法人化研修：2名 ・集落営農法人等に向けた財務・会計研修：2名 ・地域計画の策定及び推進に向けたファシリテーター研修：1名 	研修名	人数	新任普及指導員研修Ⅰ（普及指導活動経験者コース）	1名	みどりの食料システム戦略研修（土づくり・化学肥料低減）	1名	研修名	人数	自主企画研修 「夏秋栽培における非辛みシットウの栽培技術の確立」 「水稻の有機栽培技術の検討」 「花き類における経営実態の把握と 低コストで効率的な栽培方法の検討」 「主要花きのハウス内環境データを利用した 栽培技術指導力の向上」	1名 1名 2名 1名	有機農業指導員講習（有機JAS認証マスター講座）	2名
研修名	人数												
新任普及指導員研修Ⅰ（普及指導活動経験者コース）	1名												
みどりの食料システム戦略研修（土づくり・化学肥料低減）	1名												
研修名	人数												
自主企画研修 「夏秋栽培における非辛みシットウの栽培技術の確立」 「水稻の有機栽培技術の検討」 「花き類における経営実態の把握と 低コストで効率的な栽培方法の検討」 「主要花きのハウス内環境データを利用した 栽培技術指導力の向上」	1名 1名 2名 1名												
有機農業指導員講習（有機JAS認証マスター講座）	2名												

	<ul style="list-style-type: none">・特用林産研修：1名・ドローン操縦技術講習（DJI 社 T20）：1名
タブレット等 I C T 技術の 活用状況につ いて	<ul style="list-style-type: none">・環境データの確認、農家への環境データ及び生育データのフィードバッ ク・実証ほにおける調査データの入力、所属 P Cとの共有・試験ほ場の確認、マッピングの実施

外部評価対象課題の普及実績（令和6年度）及び計画（令和7年度）の概要

所属名	中央西農業振興センター																				
課題名	土佐市促成ピーマンの産地振興																				
取組期間	令和6～9年度																				
対象	J A高知県仁淀川地区土佐市ピーマン部会																				
ねらい	<p>産地が目指すべき姿に向けて関係機関が連携して作成した長期産地ビジョン「ピーマンのまち土佐市構想」の目標実現に向けて取り組む。</p> <p>1 産地のまとまりづくり 令和9園芸年度目標である部会員59戸、栽培面積24.1ha、生産量3,830t等を目指し、「既存農家の增收対策」、「労働力の確保」、「担い手の確保・育成、農地・ハウスの確保」の各チームでそれぞれの対策を実践する。</p> <p>2 既存農家の增收対策 IoPクラウド等から得られるデータを活用し、農業者の生産性・収益性が向上するとともに「データ駆動型農業」の実践農家が拡大する。</p> <p>3 労働力の確保 雇用が増え、令和9園芸年度のピーマン関係従事者374名が達成される。</p> <p>4 担い手の確保・育成 新規就農者等が円滑に中古ハウスを継承する仕組みを構築し、新規就農者等を年間3名確保する。</p>																				
令和6年度の主な実績	<p>1 各チームが長期産地ビジョンにもとづいた対策を円滑に実施でき、指導農業士の助言や先進地事例を活かした長期計画にプラスアップすることができた。</p> <p>2 気温等の施設内環境、かん水量、生育等のデータの見える化に向けて支援し、JAとの合同巡回や現地検討会等の実施により、栽培管理の見直しにつながった。</p> <p>3 求職者や生産者へのJA高知県農業求人情報サイト「あぐりマッチこうち」の利用推進により5件がマッチングできた。また農業就労環境整備事業の周知により1戸が簡易トイレを導入した。</p> <p>4 令和7園芸年度から研修生1名、ピーマンへの品目転換者1戸、親元からの独立就農者1戸を確保できた。また関係機関で密に連携し、ハウス情報を収集して貸し手と就農希望者をつないだことで、新規参入の就農希望者がハウス1棟を確保できた。</p>																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>現状（R5）</th><th>目標（R6）</th><th>実績（R6）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 生産量 (R7園芸年度2月末時点)</td><td>1,620t</td><td>1,709t</td><td>1,444t</td></tr> <tr> <td>2 目標収量達成農家数 (8t/10a 2月末時点)</td><td>6/9戸</td><td>8/10戸</td><td>5/10戸</td></tr> <tr> <td>3 マッチング件数</td><td>9件</td><td>10件</td><td>5件</td></tr> <tr> <td>4 新規就農者等数</td><td>2名/年</td><td>3名/年</td><td>2名/年</td></tr> </tbody> </table>	項目	現状（R5）	目標（R6）	実績（R6）	1 生産量 (R7園芸年度2月末時点)	1,620t	1,709t	1,444t	2 目標収量達成農家数 (8t/10a 2月末時点)	6/9戸	8/10戸	5/10戸	3 マッチング件数	9件	10件	5件	4 新規就農者等数	2名/年	3名/年	2名/年
項目	現状（R5）	目標（R6）	実績（R6）																		
1 生産量 (R7園芸年度2月末時点)	1,620t	1,709t	1,444t																		
2 目標収量達成農家数 (8t/10a 2月末時点)	6/9戸	8/10戸	5/10戸																		
3 マッチング件数	9件	10件	5件																		
4 新規就農者等数	2名/年	3名/年	2名/年																		

令和6年 度の主要 な活動内 容と実施 時期	<p>1 産地のまとまりづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「既存農家の増収対策」「労働力の確保」「担い手の確保・育成、農地の確保」の各チームの実践及び全体会での進捗状況の共有 ・令和14園芸年度までの長期計画の見直し（全体会 5～3月 6回）。 <p>2 既存農家の増収対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証ほ調査、フィードバックの実施（177回、9戸） ・施設内環境データ収集・分析、個別巡回による栽培改善支援（26回、延べ30戸） ・JAとの合同巡回（11回、延べ48戸） ・現地検討会（2回、延べ42名）、ICM通信の発行（3回/51戸） ・各種勉強会等（4回、延べ40名） <p>3 労働力の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あぐりマッチこうち」の利用推進（資料配付 4団体、相談会 5回、出前授業 2回、HPへの掲載 11～2月）、収穫体験会（6月、12月 2回）。 ・農業就労環境の整備にかかる事業の推進（資料配付 7～9月）。 ・福祉支援者を対象とした収穫体験会（11月 1回）。 <p>4 担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の就農相談会への参加、産地ツアー参加者や学生への産地等の紹介、就農希望者に対する個別面談（相談会 5回、産地訪問ツアー 1回、出前授業 2回、面談 5人）。 ・就農希望者と貸し手の空きハウスのマッチングを支援 ・指導農業士の増員と意見交換会（8月、2月 2回） ・鹿児島県志布志市への視察研修（12月） ・サポートチーム等による現地確認、面談（課題の共有、栽培・経営改善支援 4～3月 41回 4戸）
------------------------------------	---



令和7年 度の主な 目標	○長期産地ビジョン「ピーマンのまち土佐市構想」の目標実現に向けて取り組む。															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>現状（R 6）</th><th>目標（R 7）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 生産量 (R8園芸年度2月末時点)</td><td>1,444t</td><td>1,743t</td></tr> <tr> <td>2 目標収量達成農家数 (8t/10a 2月末時点)</td><td>5/10戸</td><td>9/11戸</td></tr> <tr> <td>3 マッチング件数</td><td>5件</td><td>10件</td></tr> <tr> <td>4 新規就農者等数</td><td>2名/年</td><td>3名/年</td></tr> </tbody> </table>	項目	現状（R 6）	目標（R 7）	1 生産量 (R8園芸年度2月末時点)	1,444t	1,743t	2 目標収量達成農家数 (8t/10a 2月末時点)	5/10戸	9/11戸	3 マッチング件数	5件	10件	4 新規就農者等数	2名/年	3名/年
項目	現状（R 6）	目標（R 7）														
1 生産量 (R8園芸年度2月末時点)	1,444t	1,743t														
2 目標収量達成農家数 (8t/10a 2月末時点)	5/10戸	9/11戸														
3 マッチング件数	5件	10件														
4 新規就農者等数	2名/年	3名/年														
令和7年 度の主要 な活動内 容と実施 時期	<p>1 産地のまとまりづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チームの実践及び全体会での進捗状況の共有（全体会 5～3月）。 <p>2 既存農家の増収対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育や施設内環境データ収集・分析、個別巡回による栽培改善支援（4～6月、9～3月） ・JAとの合同巡回 ・現地検討会、各種勉強会等の活動支援（4～3月）、ICM通信の発行（4回） ・高温対策実証ほの設置と調査（8～3月） <p>3 労働力の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あぐりマッチこうち」の利用推進（資料配付、広報、相談会、出前授業等 4～3月） 															

	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫体験会(12～3月 2回)。 ・農業就労環境の整備にかかる事業の推進(資料配付 4～8月)。 ・労働力支援対象者への労働力確保の支援(個別巡回 10～3月) <p>4 担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農希望者確保に向けた情報発信 (就農相談会、出前授業等 6～3月) ・農地・ハウスの情報収集、関係機関での情報共有、流動化支援(面談、検討会等 4～3月) ・就農希望者及びハウス確保に向けた情報発信(個人面談、広報、資料配布等 4～9月) ・指導農業士との意見交換会(1回) ・経営実績確認、課題整理と次作の目標設定、営農状況確認と栽培改善支援(個別面談、巡回 4～3月)
--	---

所内体制	<p>産地育成担当チーフ1名、野菜担当1名 地域営農担当チーフ1名、経営・担い手担当1名 合計4名</p>
連携推進体制の整備	<p>体制図</p> <p>各チームの体制</p> <pre> graph TD A["総括 JA 補佐 農振センター"] --> B["担い手の確保・育成 農地・ハウスの確保 ◎ 土佐市 JA 農振センター"] A --> C["雇用者の確保 ◎ JA 土佐市 土佐市福祉事務所 農振センター"] A --> D["既存農家の増収対策 ◎ JA 農振センター"] style A fill:#a0c8f0,stroke:#333,stroke-width:1px style B fill:#e0eef0,stroke:#333,stroke-width:1px style C fill:#e0eef0,stroke:#333,stroke-width:1px style D fill:#e0eef0,stroke:#333,stroke-width:1px </pre> <p>◎チーム長</p>

令和6年度 普及指導活動実績の概要一覧

中央西農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成 状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重点1	土佐市促成ピーマンの産地振興	4	生産量 (R7園芸年度2月末時点)	1,620 t	1,709t	1,444t	△	各チームの取組推進及び進捗管理を計画通り実施できたが、夏期の高温等により生育初期の収量が少なく、目標が達成できなかった。	
			目標収量達成農家数 (8t/10a 2月末時点)	6/9戸	8/10戸	5/10戸	△	ハウス内環境や生育データ等を活用した栽培技術指導の実施により、管理の見直しにつながったが、夏期の高温等により生育初期の収量が少なく、目標が達成できなかった。	
			マッチング件数	9件	10件	5件	△	「あぐりマッチこうち」の周知により、新たに登録する者も見られたが、5件のマッチングに留まった。	
			新規就農者等数	2名/年	3名/年	2名	△	就農相談会への参加や就農希望者等の意向把握により新たに研修生1名、親元就農者1名、品目転換者1名が確保できたが、目標には及ばなかった。	
重点2	いの町吾北地域の農業振興	6	地域ビジョンの作成	-	作成	作成	○	関係機関との会議を重ね、5年後を見据えた吾北の地域ビジョンを作成できた。またユズではR5年度から作成開始した吾北地区全体の優良園地台帳を完成(20園地 423ha)した。	
			生産量	188t (2ヵ年平均)	190t	182t R6実績 115t	△	栽培講習会や資料の配付等により栽培技術向上や作業の軽労働化に向け支援したが、前年豊作であったことから大幅減となった。	
			生産量	33.5t	35t	31t	△	栽培技術講習会や個別巡回により生産者に応じた栽培管理指導を行ったことで、7戸中4戸で増収したが、生産者が減少したことにより目標を達成できなかった。	
			受入体制の整備	-	整備	整備	○	半農半Xを含む新規就農者の確保に向けた研修体制、いの町農業公社の研修受入体制を整備した。	
			5ヵ年計画 Ver. 3の作成	Ver. 2	Ver. 3作成	作成	○	過去の実績を元に収入やコストをシミュレートし、経営状況を試算することで(農)上東の新たな5ヵ年計画が作成できた。	

一般1	データ駆動型農業の推進による キュウリの生産安定	2	目標収量達成農家数 (10.6t/10a 2月末 時点)	-	8戸/8戸	8戸/8戸	○	ハウス内環境や生育データ等を活用した栽培 技術指導の実施により、管理の見直しにつな がり、8戸全員が目標収量を達成した。	
一般2	施設園芸品目における データ駆動型農業の推進	3	データ駆動型農業 実践農家数	-	6戸	15戸	○	実証ほを中心にハウス内環境の見える化と、 土壌分析、生育調査を元にした技術指導を行 い、15戸でデータ駆動型農業が実施できた。	
一般3	仁淀川流域のショウガの生産安定	1	肥培管理 改善生産者数	6名	8名	8名	○	減肥試験の実証ほの結果から、リン酸過剰ほ 場が多い事実を講習会で共有することで、肥 培改善に対する意識が高まった。また竹の利 用検討のため、生姜生産研究会を発足した。	
一般4	酒米「吟の夢」の品質及び収量の向上	1	平均反収360kg以上 かつ平均等級2.1以 上の農家数	4戸	8戸	4戸	△	生育時期に応じた栽培管理や病害虫防除指導 により、収量・品質が向上したが、一部の農 家に留まり、目標には及ばなかった。	
一般5	集落営農組織の運営及び組織化支援	2	加工品完成	1	2	2	○	試作を繰り返し、レシピや原価、利益、販 売・加工回数等を確定し、販売品が完成でき た。またR7年1月より道の駅での販売を開始 した。	
		1	組織設立	0	1	1	○	地域の水稻受託者のリタイアをきっかけに、 検討会や研修会、先進地視察等を実施するこ とで、R7年1月に任意組織が設立された。	
一般6	担い手の確保・育成	9 (経営及 び各品目 担当)	新規就農者の 目標収量 達成農家数	10/11名	対象 全員	11/14名	△	サポートチーム等での定期的な巡回や面談で 栽培・経営改善支援を行ったが、夏期の高温 や作業遅れ等により新規・親元就農者14名中 3名が2月末時点目標を達成できなかつた。	

令和7年度 普及指導活動計画の概要一覧

中央西農業振興センター農業改良普及課

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重点1 土佐市促成ピーマンの産地振興	4	生産量(R8園芸年度2月末時点)	1,444t	1,743t	全体会 6回、各チーム会 毎月、検討会 1回	
		目標収量達成農家数(8t/10a 2月末時点)	5/10戸	9/11戸	データ駆動型農業実践のための実証は 11ヵ所 高温対策実証は 1ヵ所 個別巡回、総会、現地検討会 環境制御技術研究会 4回、ICM通信 4回	
		マッチング件数	5件	10件	「あぐりマッチこうち」の利用推進（資料配付、広報・集出荷場への掲示等） 働きやすい環境整備に関する支援事業周知 収穫体験会 2回	
		新規就農者等数	2名/年	3名/年	情報発信（広報、出前授業、相談会等） 農地・ハウスの情報共有、流動化支援 6回 指導農業士との意見交換会 2回 営農状況確認、栽培・経営改善支援	
重点2 いの町吾北地域の農業振興	5	継続可能な農地継承システムの構築	ユズ優良園地台帳作成済み	ニラ等優良農地台帳の作成	定例会、農業委員会・総会での周知 PT会、候補農地調査、現況確認、台帳作成	
		生産量	181t(2カ年平均) R6:113t	190t	ユズ産地協議会、役員会、研修会、総会 栽培・苗木生産技術指導（個別巡回、資料配付等） 選定技術指導（講習会 1回）	
		目標収量達成農家数	—	5名	農家の目標設定、栽培技術指導（個別巡回） 適正な播種粒数の検討（調査、勉強会、検討会） 定植時期の検討（調査、検討会）	
		担い手の確保（研修生等）	0名	1名	協力隊等への栽培研修 5回 先進地事例調査 1回、就農相談会、定例会 毎月	
		協業栽培面積	37a	55a	役員会、総会 ユズ適期栽培管理指導（個別巡回、役員会等） 有機栽培への転換に向けた水稻の栽培実証（実証は 1ヵ所、先進地事例調査 1回、個別巡回）	

一般1	データ駆動型農業の推進によるキュウリの生産安定	2	目標収量達成農家数(10.6t/10a 2月末時点)	8戸	8/8戸	データ駆動型農業実践のための実証は 8ヵ所(調査、分析、栽培改善指導) 改善事例の情報提供(個別巡回、勉強会2回、現地検討会2回、総会)	
一般2	施設園芸品目におけるデータ駆動型農業の推進	5	データ駆動型農業実践農家数	15戸	8戸	データ駆動型農業実践のための実証は 12ヵ所(調査、分析、栽培改善指導) 栽培改善事例の共有、情報提供(個別巡回、チーム会 毎月、勉強会、現地検討会、総会)	
			目標収量達成農家数	—	6戸		
一般3	仁淀川流域のショウガの生産コスト低減に向けた取組	1	肥培改善予定農家数	0	3	土壤分析結果の整理、肥培改善農家のリスト化 適正施肥量検討のための実証は 4ヵ所(土壤分析、生育調査、収量調査) 情報提供(個別巡回、講習会、総会等)	
			たい肥の試作	0	1	被覆試験土壤分析 3回、報告会 たい肥試作 2回、たい肥成分分析 1回、報告会 たい肥試験植え付け前土壤分析 1回	
一般4	酒米「吟の夢」の品質及び収量の向上	1	平均反収360kg以上かつ平均等級2.1以内の農家数	土佐市吟の夢 栽培研究会 4戸	8戸	栽培管理・病害虫防除指導(個別巡回、検討会、反省会、総会)	
				いの町吾北地域 0戸	2戸	高温対策実証は 1ヵ所(生育・収穫調査、検討会) 栽培管理・病害虫防除指導(個別巡回、反省会)	
一般5	新規設立集落営農組織の運営支援	1	組織対応面積	0	4.6ha	運営支援、作業状況の確認(定例会、個別巡回) 法人化勉強会 1回、法人化視察研修 1回 組織拡大に向けた勉強会、総会	
一般6	担い手の確保・育成	9 (経営及び各品目担当)	新規就農者の目標収量達成農家数	11/14戸	対象全員	就農相談会 3回、就農希望者への資料配付 研修状況確認(個別巡回、面談等) 営農状況確認(チーム巡回、個別巡回) 基礎講座 5回 経営発展志向農家への支援内容検討、改善支援等	
一般7	農福連携の推進	1	協力農家戸数	2戸	3戸	作業マニュアルの検討、作成、活用、見直し(農福連携部会 毎月) 農作業体験会 3回、勉強会1回、意見交換 広報による活動紹介	

令和7年度普及活動外部評価会
普及事業の外部評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央西農業振興センター農業改良普及課

(○評価会で発表 ●評価表に記載)

評価項目	評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制 ・課内（所内）の分担 ・活動の進ちょく管理の体制 ・普及指導員の資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●人員配置について、職員11名に対して普及計画課題が重点課題2つ一般課題7つと人員に対して課題数がやや多いと感じる。 ●進捗管理について、チーム会を基本としており、月1回の職員会で組織内の情報共有ができている。 ●人材育成について、令和7年度からOJT対象者が加わり、限られた人員の中での資質向上への配慮・体制整備をしてもらいたい。
普及指導活動の計画 ・現状の把握と分析 ・あるべき姿の設定 ・普及課題の設定 ・目標設定 ・対象の設定 ・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●普及課題の設定について、管内が平野部から山間部までを管轄しており、平野部の施設園芸産地振興と中山間地域の活性化をそれぞれ重点課題として設定できている。産業振興計画を踏まえて「地域で暮らし稼げる農業」の実現を目指しており、計画についても地域の農業者や関係機関とも共有できている。 ●あるべき姿の設定について、概ね適切に設定がされている。 ○ピーマンのまち土佐市構想を基に中長期的な目標とKPIを設定して、関係機関と役割分担して取り組んでいる点が評価できる。
普及指導活動の成果 ・活動の経過 ・活動の成果 ・実績の周知	<ul style="list-style-type: none"> ○データ駆動型での指導で増収につなげている点がよい。 ○新規就農者4名のうち3名が目標収量達成できていることは、今後新たに就農希望する人にとっても好影響となる点からも評価できる。 ○普及活動の周知について、これまでも実施できているが、さらに広報・周知に取り組んでもらいたい。
外部評価、総合所見等	
<ul style="list-style-type: none"> ○発表時間15分の中で多岐に渡る取組を報告することは難しいとは思うが、省略せずに説明をしてもらいたい。 ○新規就農者確保について、就農への不安解消や後押しとなる魅力が必要である。そのために必要な事項を整理し、どのような手段で伝えていくかをブラッシュアップしてもらいたい。 ○独立自営就農も重要であるが、一方で雇用就農も重要である。その点も見据えて大規模経営体を志向する農家を組織化することも取組として検討してもらいたい。 ○土佐市ではレシピコンテストも開催しているので、レシピを活用して土佐市のピーマンをPR広報・周知してもらいたい。 ○10年後を見据えた経営体の育成も検討してもらいたい。 ○産地づくりと町づくりが一体的な取り組みとなるように土佐市全体の動きに発展してもらいたい。 	

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

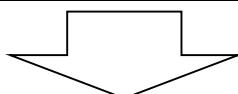
外部評価対象所属の概要

管内市町村 管内ＪＡ	四万十町 ＪＡ高知県高西地区				
産地の特徴 主な園芸品目	県西部に位置する管内は、海岸部では温暖な気候を活かしたミョウガ、ピーマン等の施設園芸、四万十川中流域ではショウガ、水稻等の土地利用型作物や施設ニラ、ピーマン、シットウ、果樹等が栽培され、産地を形成している。				
人員配置 令和4年度 14名 令和5年度 14名 令和6年度 14名	令和7年度職員総数 14名（うち実務経験が3年未満の職員 2名） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">農業改良普及所長 1名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">地域営農担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：旧窪川町)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員2名 (担当エリア：旧大正町、旧十和村)</td> </tr> </table>	農業改良普及所長 1名	地域営農担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：旧窪川町)	産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員2名 (担当エリア：旧大正町、旧十和村)
農業改良普及所長 1名					
地域営農担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)					
産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：旧窪川町)					
産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員2名 (担当エリア：旧大正町、旧十和村)					
普及活動の 進ちょく管理	<ul style="list-style-type: none"> ・重点課題は、四半期に1～2回チーム会を開催し、計画に対する進捗状況の確認とその後の活動方法等について協議を行うことで、目標達成に向けた進ちょくを管理している。 ・一般課題は、四半期毎に担当職員、チーフ、所長が実績を確認して意見交換を行い、進ちょくを管理している。 ・普及課題ごとの普及指導活動記録や関連する会議報告書を作成し、所内で進ちょく状況等を共有している。 ・週初めにミーティングを開催し、1週間の業務に関する情報共有、協力などを調整している。 ・第2四半期終了後に中間検討会を開催し、専門技術員から助言を受けながら下半期の活動について検討し、見直しなどの改善を行っている。 ・活動を円滑に進めるために、町・ＪＡ等に連絡会などを通じて活動状況や計画の見直しについて説明している。 				

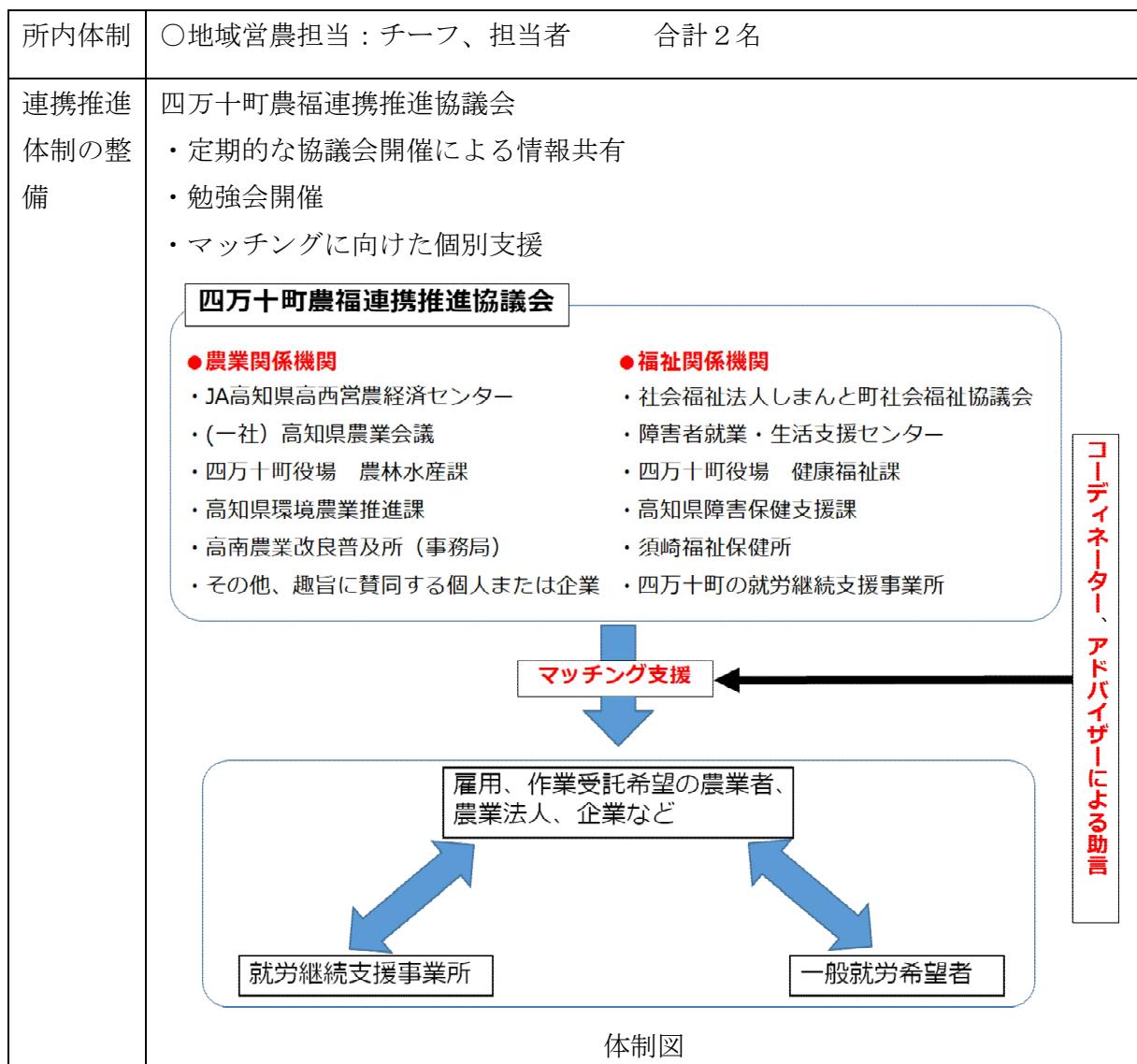
職員の資質向上の取組状況	<p>●職場研修（令和6年度）</p> <p>普及事業を推進するために必要な基礎知識と手法について、担当職員の説明と全職員での意見交換を通じた研修を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域計画の取組内容と進め方について ・法人簿記と決算書等の見方について ・外国人労働者の受入について ・米の生産、輸入状況と消費動向について <p>●新任者を対象にしたOJT（令和6年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：1年目職員1名 ・トレーナーを配置し、年度当初に作成した「新任者研修実施計画書」に基づき、習得目標を明確にしてOJTを実施。 ・毎月の職員会で、新任者が「新任者研修実施計画書」の進ちょく状況を報告し、担当の専門技術員と全職員が助言・指導を実施。 <p>●国段階研修（令和6年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="422 864 1214 909">研修名</th><th data-bbox="1214 864 1357 909">人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="422 909 1214 954">新規普及職員研修（中国四国ブロック）</td><td data-bbox="1214 909 1357 954">1名</td></tr> <tr> <td data-bbox="422 954 1214 1073">普及指導員実務能力習得研修II（マネジメント・人材育成コース）</td><td data-bbox="1214 954 1357 1073">1名</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(参考) 令和5年度の参加人数 4名</p> <p>●県段階研修（令和6年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="422 1179 1214 1224">研修名</th><th data-bbox="1214 1179 1357 1224">人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="422 1224 1214 1320">自主企画研修（夏秋栽培における非辛みシシトウの栽培技術の確立）</td><td data-bbox="1214 1224 1357 1320">2名</td></tr> <tr> <td data-bbox="422 1320 1214 1388">自主企画研修（水稻の有機栽培技術の検討）</td><td data-bbox="1214 1320 1357 1388">1名</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(参考) 令和5年度の参加人数 3名</p> <p>上記の外に、県内専門技術高度化研修などへ参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任者研修：1年目1名、3年目1名 ・普及活動基礎研修：2人 ・専門技術高度化研修：野菜1名、野菜品目別基本技術3名、茶1名、データ駆動2名、病害虫2名、集落営農1名、6次産業化1名 ・普及指導員研修：法人化2名 <p>タブレット等ICT技術の活用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地でのハウス内環境測定データ等の収集と確認、指導への活用 ・園地等の確認（ユズ、栗、その他園芸品目ほ場） ・農作業動画の作成 ・オンライン会議等の実施 	研修名	人数	新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名	普及指導員実務能力習得研修II（マネジメント・人材育成コース）	1名	研修名	人数	自主企画研修（夏秋栽培における非辛みシシトウの栽培技術の確立）	2名	自主企画研修（水稻の有機栽培技術の検討）	1名
研修名	人数												
新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名												
普及指導員実務能力習得研修II（マネジメント・人材育成コース）	1名												
研修名	人数												
自主企画研修（夏秋栽培における非辛みシシトウの栽培技術の確立）	2名												
自主企画研修（水稻の有機栽培技術の検討）	1名												

外部評価対象課題の普及実績（令和6年度）及び計画（令和7年度）の概要

所属名	須崎農業振興センター高南農業改良普及所								
課題名	農福連携の推進								
取組期間	令和6～9年度								
対象	農福連携志向農家および法人、四万十町農福連携推進協議会								
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○農業分野において、障害者や引きこもり者の雇用や、就労継続支援事業所への作業委託を促進し、農家の労働力確保を支援する。 ○障害者や引きこもり者に農業分野での就労を通じた社会参画を促す。 								
令和6年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ○体験会を経て、農業法人1件が就労継続支援B型事業所にショウガの出荷調製作業委託を開始。 ○体験会を経て、農家1件が就労継続支援B型事業所にピーマンの出荷調製作業委託を開始。 ○体験会を経て、農業法人1件が四万十町社会福祉協議会にニラのパッケージ貼り作業委託を開始。 ○JAと就労継続支援B型事業所で、ミョウガの出荷調製作業受委託に向けた作業体験会を実施。 ○農家1件が就労希望者1名と、雇用に向けたニラの出荷調製作業体験会を実施。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9e1f2;"> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">現状（R5）</th> <th style="text-align: center;">目標（R6）</th> <th style="text-align: center;">実績（R6）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">マッチング件数</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状（R5）	目標（R6）	実績（R6）	マッチング件数	4	5	5
項目	現状（R5）	目標（R6）	実績（R6）						
マッチング件数	4	5	5						
令和6年度の主要な活動内容と実施時期	<p>【啓発活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農福連携協議会を開催し、勉強会やグループワークを通して各機関の情報、意識共有を行った（4月～2月、3回）。 ○四万十町役場と協力して「事業所ツアーア」を開催、参加した農家4名のうち1名がのちに農福連携に取り組むこととなった（7月、1回）。 ○四万十町で開催された福祉イベント「ふくふくまつり」において、四万十町で農福連携取組事例の多いニラ、ミョウガの出荷調製作業体験会を実施した。また、農福連携取り組み農家を中心に出店を呼びかけ、3者が出店して農作物や加工品を販売した（12月、1回）。 <p>【マッチング支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関係機関や専門家とともに、マッチングに向けた打合せを実施（4～3月、8回）。 ○農作業体験会を実施し、3件の作業受委託につながった（5～2月、5回）。 								



令和7年度の主要な目標	<p>○農業側と福祉側双方の理解とマッチングを促し、農業労働力の補完につなげる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>現状（R 6）</th><th>目標（R 7）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マッチング件数</td><td>5</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	項目	現状（R 6）	目標（R 7）	マッチング件数	5	6
項目	現状（R 6）	目標（R 7）					
マッチング件数	5	6					
令和7年度の主要な活動内容と実施時期	<p>○四万十町農福連携推進協議会の開催 ・関係機関の今年度活動や意見の共有 ・農福連携取り組み組織の視察研修や勉強会の開催</p> <p>○農家会合等での説明・広報・アンケート調査等による啓発</p> <p>○マッチング支援 ・取組希望農家へのヒアリング（随時） ・農作業体験会の開催等（随時）</p>						



令和 6 年度 普及指導活動実績の概要一覧

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成 状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重点 1 データ駆動型農業による園芸の振興	11	ニラ重点指導農家5戸の11～2月の反収	2.3 t	2.7t	1.6t	△	株養成期のかん水管理が不十分で、株養成が十分できず、目標収量を達成できなかった。7年度はかん水管理の改善を徹底する。	
		ミョウガ重点指導農家4戸の2～8月の反収	5.5 t	5.6 t	4.9t	△	7月以降の高温時のかん水管理が十分でなく水やけ等が多発し、目標収量に届かなかった。適正なかん水量の検討・調整を指導したができきらなかった。	
		キュウリ重点指導農家4戸の10～2月の反収	11.8 t	12.0 t	11.0t	△	週一回かん水管理などを巡回指導したが、収穫初期の着果が安定せず、目標収量を達成できなかった。	
		SAWACHI アクティビユーザ率	35%	45%	31%	△	登録者数は徐々に増加しているが、活用している生産者は限られている。活用する人は閲覧頻度が非常に多いが、見ない人は全く見ないというように二極化している。巡回時等に活用していない生産者に推進したが、継続した活用には繋がらなかった。	
重点 2 地域農業を支える仕組みづくり	11	法人等設立の新規合意形成数	0	1	0	△	水稻経営は戸別完結が定着しており、法人化の合意に至らなかった。組織活動を継続するための選択肢として、農地集積と法人化を啓発していく。	
		経営計画達成（総収入の8割以上）法人割合	18%	70%	70%	○	チーム員と協力して、役員面談や個別巡回等で、個々の法人の計画達成を支援し、目標を達成することができた。	
		新たに連携検討を開始する地区数	0	1	0	△	大正・十和地区的法人を核とした連携について、役員・関係機関に働きかけて協議を重ね、次年度協議会を立ち上げることになった。意識啓発に時間を要している。	
重点 3 多様な担い手の確保・育成	11	ハウスリスト整備	基礎データ作成済	整備 1	整備 1	○	基本的なハウス情報は整理できた。 200戸、54ha うち70歳以上35戸、6.1ha。	
		就農計画作成数	7戸	8戸	4戸	△	今年度は就農相談数や認定新規就農者が少なかった。	
		就農計画達成農家率（収量9割）	66%	70%	56% (15/27戸)	△	夏場の高温や病害等の影響で収量が伸びない農家が多くかった。	
		家族経営協定締結数	2戸	2戸	0戸	△	協定締結に向けた個別農家への推進が不十分だった。また、家族経営協定を要件とする認定農家などが少なかった。	

一般 1	水耕セリのデータを活用した生産振興	2	12～2月のJA出荷量	12.7t	13.2t	10.5t	△	高温対策として苗床でのスポットクーラーの使用を促したが使用につながらず、発芽率が低下して定植のための十分な苗の確保ができなかった。
一般 2	四万十次世代施設園芸団地の生産安定	3	作終了時のトマトホモブシス茎枯病発病率（1株当たり主枝2～3本）	10.9%	7.2%以下	5.2%	○	定期的な巡回と薬剤防除の周知により、発病を抑えられている。
一般 3	有機栽培の生産安定	3	有機ショウガ目標収量達成農業者率	66% (8/12名)	83% (10/12名)	0% (0/11名)	△	有機栽培の現地検討会を開催するなど技術向上に含めたが、定植遅れや夏期の高温・少雨により、収穫量が例年の50～80%に減少した。
一般 4	高南地域における栗および有機果樹の生産振興	2	(高南地域栗生産協議会)栗生産量	0.37t	1.0t	0.31t	△	夏場の高温で収量が激減したこと、鳥獣対策が後手に回ったことから目標に届かなかった。高温、鳥獣被害対策の情報提供を適時に徹底する必要があった。
			(JA高知県四万十ユズ生産部会)有機ユズ生産量	156t	110t	110t	○	裏年で前年比70%となつたが、ほぼ計画的な生産ができた。普及計画に基づいた現地検討会、講習会の実施が生産計画達成に寄与した。
			(JA高知県十和支所栗部会有機栗生産者)有機栗生産量	3.5t	3.5t	1.5t	△	夏場の高温で収量が激減したこと、鳥獣対策が後手に回ったことから目標に届かなかった。高温、鳥獣被害対策の情報提供を適時に徹底する必要があった。
一般 5	土壌病害対策（ショウガ、米ナス）の推進	3	(ショウガ)次年度還元消毒取組意向の生産者数	0	1	1	○	JA部会の反省会で土壌還元消毒の取組について、生産者へ情報提供することができた。
			(米ナス)病害リスク管理シートの提出率	0%	30%	60%	○	JA部会の反省会にて、シートを配布し記入してもらった。記入できなかつた生産者には個別巡回した。
一般 6	GAPの推進	12	農薬事故件数	13	0	14	△	JAと協力して農薬一覧表を見直すとともに、JA品目部会や個別巡回等により農薬適正使用や農作業安全について啓発したが、農薬事故は前年よりも1件多く14件发生了した。
一般 7	夏秋ピーマンの生産振興	2	部会平均反収達成率	50%	60%	42%	△	水分管理の徹底等の巡回指導を1回以上/月実施したが、日中の高温に対応しきれず、着花・着果が安定せず生育不良や収量低下につながつた。
一般 8	非辛みシットウ「しまろ」の露地栽培技術の確立	4	非辛みシットウの露地栽培マニュアルの作成	未完成	完成	完成	○	高収量農家への聞き取り等により、非辛みシットウの露地栽培マニュアルを作成することができた。
一般 9	水田農業の振興 (ブランド米、酒米の生産振興)	3	(ブランド米)1等米以上の比率	14%	20%	52%	○	毎月の現地検討会の開催などで効果的に情報伝達できた。
			(酒米)1等米以上の比率(H30～R5の平均26%)	82%	30%	88%	○	毎月の現地検討会の開催などで効果的に情報伝達できた。穂肥の施用が品質向上につながつた。
一般10	農福連携の推進	2	マッチング件数 (試行就労等含む)	4	5	5	○	農業法人と就労継続支援事業所間でのマッチングが広がつた。

令和 7 年度 普及指導活動計画の概要一覧

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重点 1	データ駆動型農業による園芸の振興	10	ニラ重点指導農家 5戸の11～2月の反収	1. 6t	2. 8t	・巡回指導50回、実証は設置 2カ所、勉強会 2回、現地検討会 3回 ・経営についての面談 1回	
			ミョウガ重点指導農家 4戸の2～8月の反収	4. 9t	5. 7t	・巡回指導35回	
			キュウリ重点指導農家 4戸の10～2月の反収	11. 0t	12. 3t	・巡回指導28回、生育調査16回、現地検討会 2回、総会・反省会 1回 ・農家面談 1回	
			S A W A C H I アクティビユーザ率	31%	50%	・各品目部会での周知 2回、個別相談 3回 ・データ活用勉強会 1回	
重点 2	地域農業を支える仕組みづくり	11	法人等設立の 新規合意形成数	0	1	・合意形成に向けた役員面談、検討会 1回 ・志向組織等の掘り起こし・法人化啓発の研修会 1回、勉強会・集落座談会 ・先進地視察 1回、水稻の次期対策についての講習会 1回	
			経営計画達成（総収入の 8割以上）法人割合	70%	70%	・役員会 ・巡回指導、省力化等実証は設置 2カ所、講習会 ・研修会 2回、簿記記帳指導	
			新たに連携検討を 開始する地区数	0	1	・対策の協議会 2回、水稻育苗・果樹の巡回指導 ・巡回調査、役員面談	
重点 3	多様な担い手の確保・育成	11	ハウスリストの見直し	ハウスリ スト作成	ハウス台 帳作成	・就農相談25回、就農相談会3回 ・出前授業についての検討会2回、出前授業4回 ・台帳作成に向けた協議 4回	
			就農計画作成数	4戸	8戸	・巡回による研修生の状況確認 4回 ・就農計画作成のための面談 8回	
			就農計画達成農家率 (収量9割)	56%	70%	・巡回指導、栽培期間中1回以上/月 ・農家面談 2回	
			家族経営協定締結数	0戸	2戸	・生産部会等へのPR 2回 ・女性農業者等の交流会 2回、研修会 1回 ・就労環境改善・法人化支援のための巡回・面談2回	

一般 1	有機栽培の生産安定	5	有機栽培面積 (水稻、野菜)	13. 9ha	14. 1ha	・情報収集等のための定例会5回 ・現地検討会2回、勉強会1回、巡回指導1回 ・有機農業推進協議会2回	
一般 2	高南地域における栗 および有機果樹の生産振興	1	(高南地域 栗生産協議会) 栗生産量	0.31t	1t	・基本管理技術の巡回指導2回、現地検討会1回、 出荷反省会1回、他産地視察1回 ・ほ場の現状確認のための巡回調査2回	
			(JA高知県四万十 ユズ生産部会) 有機ユズ生産量	110t	110t	・基本管理の巡回指導5回、検討会2回、総会1回、 他産地視察1回 ・園地情報の聞き取り調査	
			(JA高知県十和支所 栗部会有機栗生産者) 有機栗生産量	1.5t	3.5t	・目慣れし会1回、現地検討会1回、総会1回	
一般 3	露地ショウガにおける土壌病害対策	2	次年度還元消毒に 取り組む意向のある 生産者数	2戸	3戸	・区長回覧による啓発8回、巡回指導12回 ・実証は設置2カ所、生育調査5回 ・反省会等での調査結果等の情報共有2回	
一般 4	夏秋米ナスの生産振興	2	露地米ナス収量 (一株当たりの出荷量)	1.9箱	2.4箱	・青枯病対策の実証は設置1カ所、 巡回指導22回(うち生育調査8回) ・天敵を利用した害虫防除実証は設置1カ所 (天敵発生調査14回)、反省会での結果の共有1回	
一般 5	GAPの推進	13	農薬事故件数	14	0	・意識啓発のための現地検討会2回、講習会11回、 巡回指導5回(以上6月末時点)	
一般 6	夏秋ピーマンの生産振興	1	部会平均反収(5t) 達成農家率	43%	60%	・栽培講習会2回、病害虫講習会1回 ・温度管理ほかの巡回指導14回、現地検討会2回 ・高温対策資材の実証は設置1カ所、反省会での結果報告1回	
一般 7	非辛みシットウの露地栽培技術の確立 および生産拡大	2	非辛み品種苗の 注文数の割合	22%	25%	・聞き取り調査2戸 ・栽培技術の検討のための巡回調査15回、現地検討会5回 ・露地栽培マニュアル作成、講習会1回	
			シットウ一本当たりの生 産量	6.4kg	6.5kg	・栽培マニュアルを活用した巡回指導5回、反省会1回、 マニュアルの更新1回	
一般 8	ブランド米、酒米の生産振興	2	(ブランド米) JA部会反収と 1等米の比率	373kg 52%	410kg 40%	・基本管理の現地検討会6回、他産地視察1回、巡回指導5回 ・本年度収量・品質状況等の共有のための出荷反省会1回、 講習会2回	
			(酒米) JA部会反収と 1等米以上の比率 (H30～R6の平均35%)	399kg 88%	380kg 40%	・基本管理の現地検討会6回、他産地視察1回、巡回指導5回 ・本年度収量・品質状況等の共有のための出荷反省会1回、 講習会2回	
一般 9	農福連携の推進	4	マッチング件数 (試行就労等含む)	5	6	・農福連携推進協議会2回、勉強会1回 ・農作業体験会等によるマッチング支援6回	

令和7年度普及活動外部評価会
普及事業の外部評価結果及び改善方向に関する助言・提言

須崎農業振興センター高南農業改良普及所 (○評価会で発表 ●評価表に記載)

評価項目	評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制 ・課内（所内）の分担 ・活動の進ちょく管理の体制 ・普及指導員の資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●人員配置について、課題数に対してやや人員不足を感じる。 ●進捗管理について、定期的なチーム会や週初めミーティング、課題別担当者会により情報共有が図られており、中間検討会で進捗確認できている。 ●人材育成について、研修への参加や新任者へのOJTも実施されている。新任者が2名いることから当該職員の資質向上に配慮をしてもらいたい。
普及指導活動の計画 ・現状の把握と分析 ・あるべき姿の設定 ・普及課題の設定 ・目標設定 ・対象の設定 ・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●普及課題の設定について、適切に設定がされている。これらのあるべき姿を地域農業者や関係者等としっかりと共有してもらいたい。 ●あるべき姿の設定について、概ね適切に設定がされている。 ●普及課題の設定について、重点課題はデータ駆動型農業の推進、地域農業への支援、担い手の確保をテーマとして、所管する地域や品目を横断するような課題設定となっている。 ●関係機関との連携について農福連携の事例からも十分にできている。一方で、農福のコーディネーターやアドバイザー等との連携頻度が十分であったかは判然としなかった。 ○目標設定について、農福連携の課題ではマッチング件数を指標としているが、障害者雇用による収益性の向上、満足度、継続雇用率などを設定することも検討してもらいたい。
普及指導活動の成果 ・活動の経過 ・活動の成果 ・実績の周知	<ul style="list-style-type: none"> ●農業側と福祉側の関係機関と連携し、協議会の事務局としてコーディネート役を務めたことで、成果を出していることが評価できる。 ○農福連携は障害者等が農業分野で活躍してもらうことで社会への参画の一助にもつながる地域社会全体の課題解決でもある。そのような課題に取り組み、成果を出していることは高く評価できる。 ○普及組織として成果を出しているので、SNS等も活用してもっとPRして広報・周知してもらいたい。

外部評価、総合所見等

- 農福連携はマッチングした後が重要である。障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者だけでは生産者の現場でうまく対応できないこともあるので、生産者と障害者の間に入って状況把握し問題に対応していくための支援をしてもらいたい。
- 業務フローの見える化、アウトソーシングが可能な作業の洗い出し、作業マニュアルの作成などの取り組みは農福連携だけでなく雇用者の業務改善や確保にとっても重要である。その観点からも農業に関連する作業について調査研究を引き続き実施してもらいたい。
- 農福連携を推進する上で、障害者も扱いやすいような仕様の機械導入やＩＣＴの活用も検討し、より農業へ参画しやすい環境整備も視野に入れてもらいたい。
- 単一品目の作業では通年雇用が難しいようであれば、他品目とも連携することで通年雇用できるかも検討してもらいたい。
- 雇用する生産者側と雇用される福祉側の双方に課題があることから双方の能力向上をどのように図るかを引き続き検討して支援してもらいたい。
- せっかく成果をあげる（数字を上げる）ことができているので、担当の異動等の理由でこれまでの取組がゼロにならないように継続性をもって取り組んでもらいたい。

令和7年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言
(評価委員会及び講評)

1 普及指導活動の体制

- ・普及指導体制については各農業改良普及課・所とも問題なく整備できている。
- ・普及活動に関する進捗管理については各農業改良普及課・所ともチーム会や中間検討会等を通じて実施できている。
- ・普及指導員の資質向上については各農業改良普及課・所とも各種研修の受講やOJT研修等によって実施できている。

2 普及指導活動の計画

- ・大産地の育成やブランド化の推進に向けて、普及指導員が尽力して取り組んでいることがよくわかった。これからも日々の活動上の目標を達成し、数年後の目標としている地点に到達できるように引き続き取り組んでいただきたい。
- ・関係機関とは役割分担した上で連携できており、成果につなげられている点が評価できる。
- ・ある1つの顕在化した問題について重点的に取り組むことも大事であるが、その問題は他の顕在化あるいは潜在化している問題とも連動していることが多いので、問題の洗い出しと整理によって包括的に状況を捉えた上で諸々の問題に対応した活動を展開してもらいたい。

3 普及指導活動の実績・成果

- ・普及指導員が活動を通じて、日々農業者と付き合いながら一方で関係機関とも協力して取り組めていることを実感することができた。引き続き、農家の意識を変えて主体的な行動を喚起するために、様々な手法を実践していただきたい。
- ・農業は持続可能で次世代に誇れる産業として発展していく可能性が高いと感じている。普及指導員には誇りを持って農業の魅力や価値を社会に広く発信していただくようしてもらいたい。その社会への発信が他の産業や分野とのつながりに波及し、つながった人たちと共に様々な課題を加速的に解決させていくことにもなると思う。
- ・普及活動の結果として良い点や悪い点を環境農業推進課が吸い上げて各農業改良普及課・所に情報共有していただき、活用できるようにしてもらいたい。また、普及活動の成果を外向けにしっかりとPRすることで、普及組織の維持・強化につなげてもらいたい。

4 その他

- ・今回の普及活動外部評価会を通じて、普及指導員は本当にとても素晴らしい活動をされていることがよくわかった。一人の農業者として感謝の意を表したい。
- ・世の中の変化や情報のスピードが速い中で、それに適応しながら普及活動しなければならない状況にあると想像している。そういう状況下で普及指導員一人一人の負担が増えてきているのではないだろうかと感じる。日々頑張っている普及指導員が報われる評価されるようなことをしてあげてほしいと感じた。

主な評価結果に対する普及指導計画（活動）の改善方向

普及活動外部評価委員の皆様におかれましては、外部評価および評価委員会で時間をかけて評価をしていただき、誠にありがとうございました。

評価委員の皆様からのご意見を踏まえ、本年度及び令和7年度以降の普及指導活動の体制や方法、また、外部評価の実施方法等について改善に努めてまいります。

主な評価結果と改善方向は次のとおりです。

項目	評価結果	今後の改善方向
普及指導活動の体制	○新任者の育成へより一層の配慮をしてもらいたい。	○各農業改良普及課・所ではトレーナー担当を配置し、個別育成チームを結成して取り組んでいるところであるが、職場全体で育成するという意識・文化の醸成が不十分でトレーナーに偏重している傾向がみられる。今後ますます、新任者が継続的に配属されることも想定されるため、各農業改良普及課長及び所長は職場全体で育成するという意識をもってOJTに取り組む。
普及指導活動の計画	○ある1つの顕在化した問題について重点的に取り組むことも大事であるが、その問題は他の顕在化あるいは潜在化している問題とも連動していることが多いので、問題の洗い出しと整理によって包括的に状況を捉えた上で諸々の問題に対応するような活動を展開してもらいたい。	○普及計画を策定する上で、1つのテーマありきで計画づくりをしている事例もある。今後は、管内全体の産地や地域、対象となる農業者の状況等を把握・分析したうえで、るべき姿に向けて取り組むべきテーマが何であるかをこれまで以上に意識し、必要であれば各種普及活動テーマを網羅的に内包した普及計画を策定するよう取り組む。

	<p>○目標設定について、取組内容と活動の効果が発現する時期が異なる事例がある場合、短期的な取組と長期的な取組を分けて整理して目標設定と活動計画の作成をしてもらいたい。</p>	<p>○課題の目標設定によっては、単年度で成果として現れない場合には、成果が現れるまでの見通し（期限）を明確にするとともに、そこに至るまでの計画と中間目標を明確にして普及活動できるような計画づくりに取り組む。</p>
項目 普及指導活動 の成果	<p>○農業は持続可能で次世代に誇れる産業として発展していく可能性が高いと感じている。普及指導員には誇りを持って農業の魅力や価値を社会に広く発信していただくようしてもらいたい。その社会への発信が他の産業や分野とのつながりに波及し、つながった人たちと共に様々な課題を加速的に解決させていくこともなると思う。</p> <p>○普及活動の結果として良い点や悪い点を環境農業推進課が吸い上げて各農業改良普及課・所に情報共有していただき、活用できるようにしてもらいたい。また、普及活動の成果を外向けにしっかりとPRすることで、普及組織の維持・強化につなげてもらいたい。</p>	<p>○普及組織内部に向けた活動結果の情報共有については、四半期実績の「結果・成果」欄の年間評価を記述する際に、P D C Aサイクルを回すためのCとAを意識した活動の評価とその要因等を記載することとする。また、本四半期実績を県下の普及課・所に共有することで、普及組織内で今後の活動の一助となるように努める。</p> <p>一方、普及組織外部に向けた活動成果のPRについては、これまで以上にSNSやWebを活用して高知県の普及指導活動を広く周知するように取り組む。</p>

項目	評価結果	今後の改善方向
外部評価に対する意見	<p>○今回の普及活動外部評価会を通じて、普及指導員は本当にとても素晴らしい活動をされていることがよくわかった。一人の農業者として感謝の意を表したい。</p> <p>○世の中の変化や情報のスピードが速い中で、それに適応しながら普及活動しなければならない状況にあると想像している。そういう状況下で普及指導員一人一人への負担が増えているのではないだろうかと感じる。日々頑張っている普及指導員が報われる評価されるようなことをあげてほしいと感じた。</p>	<p>○毎年各分野の外部評価委員の方々からの忌憚のない意見や評価をいただいたことで、年々、各農業改良普及課・所の自らの活動をわかりやすく明確に伝えることがうまくできるようになってきていると感じている。その一方で、目標設定の定量化や成果の数値化についてはさらに改善すべき点が見受けられる。今後は、外部評価委員の方々の共感をより得られるよう、よりいっそうの普及指導活動の質の向上に努めるとともに活動によって得られた成果の見える化にも意識したい。</p>